

初開催の枝肉研究会で杉沢さん最優秀賞

「第1回花巻農協肥育部会女性部枝肉研究会」受賞報告



「元気に頑張っています」と笑顔を見せる杉沢さん（右）

第1回花巻農協肥育部会女性部枝肉研究会で最優秀賞を受賞した杉沢ツヤ子さん（64）は6月19日、J A本店を訪れ、高橋専太郎組合長に受賞を報告しました。

研究会は、北上地域肉牛部会の女性らが平成6年から開催してきましたが、今年は初の試みとして、管内全地域の肥育に携わる女性を集め、6月4日、東京食肉市場で開催しました。

研究会には、去勢、雌の黒毛和種合わせて24頭が出品され、杉沢さんの枝肉は、肉質の良さが高く評価され受賞。杉沢さんは「受賞はもちろん、広域の女性生産者同士の交流や情報交換は大きな励みになる。これをきっかけに生産に携わる女性の活動が活性化できれば嬉しい」と語りました。高橋組合長は「女性の活躍に期待している。頑張っ

地産地消の定着目指す

平成27年度の地産地消レシピ集が完成



J Aは、食と農を守る活動として、地元農畜産物のP Rと普及拡大を目指し、「地産地消レシピ集」を作成しました。

今年で12冊目となるレシピ集には、J Aが開催する「地産地消料理コンクール」の入選作品など、女性部員やJ A食育リーダー、地元高校生などが考案した地元食材で作ったアイデア料理や菓子など20品を掲載しています。

「体にやさしい健康食」「米粉を使った地産地消デザート」「子どもと作る地産地消弁当」「健康寿命100歳弁当」の4部構成になっており、親子の食育から高齢者まで幅広い年齢層に向けられた内容に仕上げました。

作成した3000部は、教育機関や食育の現場、家庭や集落活動で配布し、地産地消の定着と更なる広がりを目指します。またレシピを開発した、女性部員や地元高校生を講師に招き、料理教室なども開催する予定です。

6月5日には、高橋勉副組合長が花巻市教育委員会を訪問し、佐藤勝教育長に1000

J A運営や地域活性化に女性の声を

北上地域初開催「みなみ支店 女性座談会」



思いを発言する参加者。座談会では女性の視点から貴重な意見が出された

みなみ支店は6月6日、J A運営や地域の活性化に女性の声を活かそうと、「女性座談会」を開きました。

座談会は同支店で行われ、地区の女性総代や女性農業者、J Aなど合わせて23人が参加。様々な意見が飛び交う中、女性部の菊地近子南部支部長は、休日と同支店職員が金融や共済の相談を行う「ふれあい相談会」や同日に職員らとともに開く「朝市」を通して、地域との繋がりの重要性を述べ、「支店と一体となった取り組みで地域を活性化したい」と語りました。

白岩宗子支店長は「女性の意見を吸い上げ、組合員や地域の求めている声に添えていく」と参加者に伝えました。

活用の場を広げようと話し合いを進めるJ A職員



「共に地産地消や食育活動を進めよう」と高橋副組合長（左）と佐藤教育長

部を贈呈しました。高橋副組合長は「レシピ集活用の場を増やす為の仕掛けづくりを行いながら、地産地消活動を推進している。教育現場などでは是非活用してほしい」と手渡ししました。佐藤教育長は「子どもたちへの食育指導のほか、保護者に向けての地産地消活動の重要性をアプローチしていきたいと思っている。大変ありがたい。幅広く活用させて頂く」と話しました。

レシピ集は花巻市農業振興対策本部の協力を得て作成し、A4サイズでオールカラー15ページ。色鮮やかな写真とともに調理法が掲載されています。

（お問い合わせ先 生活福祉部生活ふれあい課
☎0198-45-11213）

大粒収穫めざし栽培管理徹底

西和賀地域いちご部会「露地イチゴ目揃え会」



良品出荷に向けて決意を新たに品質を確かめよう生産者ら

西和賀町の露地イチゴは地域特有の涼しい気候の影響で、他産地の出荷が終了した7月に出荷最盛期をむかえます。西和賀地域いちご部会は6月19日、同町沢内の氷室集荷場で目揃え会を開きました。

同部会員や市場関係者ら21人が参加。西和賀普及サプセンターは、地温を下げる事やかん水などの徹底で、粒を大きくさせる管理を呼びかけました。有馬富博同部会長は「昼夜の寒暖差があり良いイチゴが出来てきている。技術・知識・思いを込めて、要望に答えられるものを出荷しよう」とあいさつしました。

同町は5月まで残雪が残る豪雪地帯。特有の気候の中、生産者の努力と愛情に育まれた同部会のイチゴは、市場からも高い期待を寄せられており、7月中〜下旬まで出荷が続きます。

秋冬野菜の栽培方法指導

沿岸地域園芸相談会



講師の話を真剣に聞く参加者

J Aは6月9日と11日、沿岸地域の6会場で園芸相談会を開きました。

相談会には、生産者ら約40人が参加。講師に大船渡農業改良普及センターと種苗メーカーを迎え、大槌町に今秋オーブン予定の農畜産物直売所への出荷に向けた栽培指導や露地野菜の組み合わせ栽培の事例などを紹介しました。参加者はシカによる農作物被害の対策相談や栽培上の工夫点などの情報交換を行い、生産意識を高めました。

栗林町の川崎精一さん（75）は「講師や他の農家の話が聞けて良かった。今回教わった、野菜の生育日数などを参考にこれからは頑張りたい」と話しました。